

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

F-FACT

ファクト> Fukui advanced companies' try

〔特集〕「オープン」がビジネスを変える
～オープンが生む繋がり～

vol. 14

① ネットワークの構築

大学・高専、公設試等の研究機関の500人以上の人材データベースを構築し、研究シーズを広く紹介。大学で産学官連携を担当するコーディネータ、企業のニーズが分かる商工会議所や商工会の経営指導員、金融機関の融資担当者などがこれを活用することで、ニーズ・シーズマッチングを推進します。

② IR交流会の開催

研究者やコーディネータ等が会員企業と現場で交流することで、企業の悩みを解決し、革新的技術や製品の開発に結びつけるイノベーションリサーチ交流会（IR交流会）を開催します。ご要望に応じて最適な交流を図ります。ぜひご活用いただきたいと思ひます。

<h4>産地に出向いての交流</h4> <p>繊維・眼鏡・伝統産業などの産地を訪問し、現場のニーズと技術シーズとのマッチングを図ります。</p>	<h4>企業に出向いての交流</h4> <p>企業に直接訪問し、開発現場で技術者の生の声を聞くことにより、研究課題を抽出し、ニーズ・シーズマッチングを行います。</p>
<h4>研究室に招いての交流</h4> <p>大学・高専、公設試験研究機関等の先端研究施設に会員企業を招いて、情報交換や企業の課題への対応を行います。</p>	<h4>各機関イベントを活用したオープンイノベーション促進</h4> <p>各機関が行っているマッチング会等のイベントに、ふくいオープンイノベーション推進機構が連携して総合的な交流を図ります。</p>

《会員募集》

当機構を利用するためには、会員登録が必要です。会員募集は随時行っており、当機構のホームページからも入会できます。ぜひ、ご入会いただきたいと思ひます。

<http://www.fklab.fukui.fukui.jp/kougi/foip/>

「オープンイノベーション推進機構」設立

執筆者 勝木 一雄 氏
オープンイノベーション推進機構ディレクター
福井県工業技術センター 所長

「オープン」が ビジネスを変える

～オープンが生む繋がり～

2015年6月3日、「ふくいオープンイノベーション推進機構」の発足式典が行われました。オープンイノベーション推進機構は、県や県内の大学がこれまで個別に進めてきた産学官連携のノウハウを集結し、さらに金融機関を加え、県内企業と県内外の研究機関を繋ぐことで、県内ものづくり企業の支援をすることを目的に発足しました。所属する企業や業種の垣根を超えてきた新鮮なアイデアや技術から、革新的な商品やビジネスモデルが生まれる可能性を秘めた「場」ができた今、県内産業の活力を向上させ、国内外に打って出る駆動力になることが期待されています。

今回の特集では「オープン」がビジネスを変える。オープンイノベーションの例にあるように、これまで個々の企業等が自社で守ってきた、独自の技術やノウハウ・情報をオープンにすることで、新たなビジネスチャンスと市場を手に入れた企業事例を紹介します。製造現場の裏側までありのままに見せることで、品質の良さをアピールする住宅メーカー。行政が公開するオープンデータを活かし、生活に役立つアプリ開発をしながら、一般企業のデータ公開にもつなげたいと考えるソフト開発企業。などなど、本県でもそれぞれのカタチで「オープン」への気運が高まりを見せているようです。

1. 設立の背景と記念式典

我が国の産業は、先端材料の開発など技術革新が著しく、企業を取り巻く状況は一層激しさを増しています。本県においても、イノベーション創出の重要性を認識し、地域の枠を超えた協力による技

術的課題解決の必要性が生じておりました。そこで、「ふくいオープンイノベーション推進機構」を設立し、産学官金の組織・ネットワークを活かした研究開発体制を築くとともに新事業の創出を行うこととし、福井市内において、設立記念式典と講演会を行いました。

2. 機構の活動内容

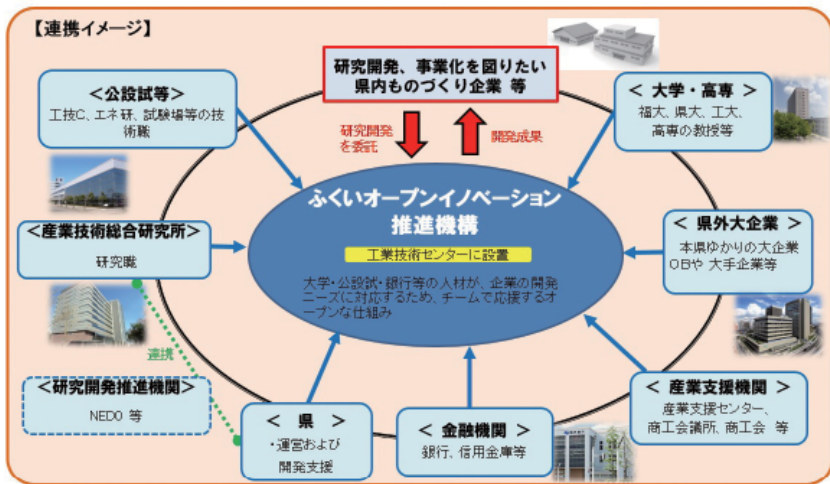
当機構は、産学官金の叡智を結集して、県内企業のイノベーション（技術開発）を応援し、Hidden Champion（世界的グローバルニッチトップ企業）を創出します。図のように、大学・公設試・銀行等の人材が、企業の開発ニーズに対応するため、チームで応援するオープンな仕組みとなっています。当機構では、革新的な研究、製品開発を支援し、事業化を推進するため、次の活動を行っています。

講演会では、株式会社本田技術研究所の塩川誠氏から「次世代自動車を支える材料技術の現状と展望」と題して、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の野田篤司氏より「宇宙開発とイノベーション」と題して、それぞれご講演をいただきました。式典および講演会には約300名の参加を頂く盛況ぶりです。地元企業からの期待の高さが伺えました。

3. 終わりに

県では機能性材料、医療、アグリビジネスなどの成長分野への事業展開を推進しています。当機構は、炭素繊維複合材料を用いた自動車、航空・宇宙関連部材の開発、チタン微細加工技術や繊維技術によ

る医療器具等の開発、農工商連携によるアグリビジネスへの参入を始めあらゆる分野において精一杯お手伝いさせていただきます。皆様には、革新的な研究、製品開発、事業化のために、積極的に当機構をご活用頂きたいと思ひます。



CONTENTS

01 特集 「オープン」がビジネスを変える
～オープンが生む繋がり～
・イントロダクション
ふくいオープンイノベーション推進機構設立
・企業事例
㈱松浦機械製作所/㈱下村漆器/アイテック㈱
永森建設㈱/アートボックス㈱/山嘉商店㈱
・IT業界のオープン
fukui-jig.jp/MashupAwards/どっと混む福井/
福井県オープンデータコンテスト
・コミュニティの生まれる場所

13 完成への道のり うちの里かわだまちづくり協議会
15 若手のチカラ スタイル・オブ・ジャパン㈱
17 飛躍する経営者たち 中尾豊氏 ㈱PROPO
18 グッドデザインシンキング
19 今月の社是
20 インフォメーション 他

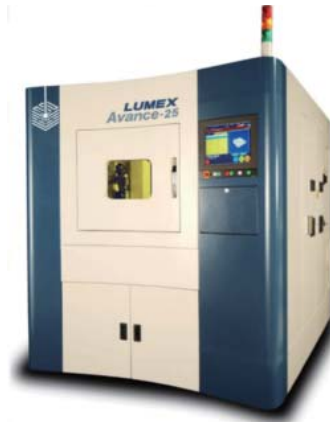
産学官連携が生みだした福井の技術

これまでも産学官の連携をとおり、本県から数々の技術が全国や世界に向け発信されてきました。オープンイノベーション推進機構が発足した今、さらなる加速が期待されています。ここでは自社のコア技術をオープンにし、連携することで技術を進化させた3つの企業事例を紹介します。

レーザー技術を共同研究 世界初の加工機械を開発

今から10数年前、工作機械メーカーの(株)松浦機械製作所は、リニアモーター駆動の高速高精度リニアモーターマシンを開発し、レーザーを使用できないかを考えていました。県工業技術センターも当時、繊維、眼鏡フレーム、機械などの地場産業にレーザー技術を導入して加工方法にイノベーションを起こすべく、文部科学省の地域結集型共同事業に応募していました。福井大学も含めた産学官のプロジェクトが2000年12月に立ち上がり、同社もその枠組みの中で開発を進めることになりました。

長年培った技術を開放し、研究を進め完成したのが「LUMEX Avance-25 (ルーメックス・アバンス25)」。

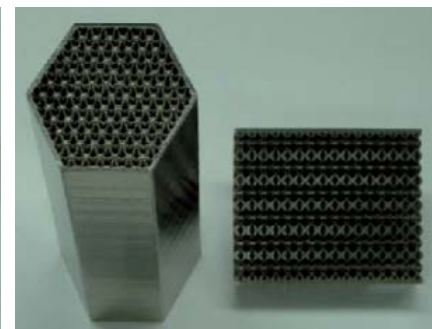


一つのマシンに集約した画期的なワンマシン・ワンプロセスを実現した工作機械です。強度も強く、最終製品とすることも可能。造形と切削の2つの作業を複合的にこなせる機械は世界初でした。

が考えられる航空機や医療(人工骨やインプラント製作)産業への拡販も見込まれています。



歯科部品



3次元メッシュ構造

株式会社松浦機械製作所

アイテック株式会社
所在地: 鯖江市神中町2丁目6-8
電話番号: 0778-52-8647
代表者: 黒田 優氏

株式会社下村漆器
所在地: 鯖江市片山町8-7
電話番号: 0778-65-0024
代表者: 下村 昭夫氏

株式会社松浦機械製作所
所在地: 福井市漆原町1-1
電話番号: 0776-56-8100
代表者: 松浦 勝俊氏

越前漆器の技術を応用 調理の手間を大幅に削減

株式会社下村漆器

今年7月、鯖江市の漆器メーカーの(株)下村漆器は、県内の管理栄養士や衛生管理の専門家らと共に、台車型の電磁調理器(IH)装置を使って、最大28食分の料理を一度に作れるシステム「インカートクックシステム」を実用化させました。

肉や野菜などの食材を食器に盛り付け、食膳に出す状態でトレーに並べ、そのままIH装置に入れば、全ての料理が一気にでき上がるというシステム。献立に沿って加熱時間と火力を設定するだけでなく、調理の手間や時間を省けることが最大のメリットとなっています。その他、人件費の削減、省エネ、食中毒防止など、このシステムにより多くの問題が解決されるようになります。

同システムに使用されているのが同社の開発した、260℃の高温に耐えられるプラスチック製の食器。食器自体に鍋や釜の機能と、耐久性・耐熱性を併せ持たせるために同社は、福井大学、静岡大学、県



写真提供株式会社エージーピー <http://www.agpgroup.co.jp>

工業技術センター等と研究開発共同体制を組み、研究を重ねました。既存の漆塗りの技術を応用し、緻密で高硬度なガラスに似た無機物を多層コーティングすることで、多くの課題をクリアし完成にこぎつけました。

産学官の連携によって生まれた鯖江発のこの技術は、将来の高齢化や人口減少に対応できる画期的なものとして広がりを見せそうです。

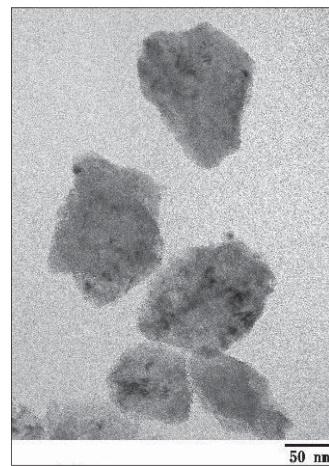
産学官連携でめっき技術を向上 ナノテクノロジーで新分野へ進出

アイテック株式会社

鯖江市にあるアイテック(株)は、産学官の連携によりこれまで培ってきた眼鏡フレームへの表面処理の技術に磨きをかけ、2013年、新たな分野での商品開発に成功しました。

同社が開発したのはナノダイヤモンド複合メッキ「ND CO (ナデコ)」。本来はほぐしにくいナノダイヤモンド粒子(粒子径が15~150ナノメートル)と呼ばれる超微小な粒子を、静電気を帯びさせることで、液体の中で固まらないようにし、めっき皮膜中に均一分散させるとい世界初の技術が活かされています。

これにより、ダイヤモンドの硬さなどで耐久性が増し、耐摩耗性や滑りやすさも向上します。部品同士がこすれ合う箇所の例えばエンジンのピストンヘッドにめっき加工することで耐久性がアップするほか、既に採用



50 nm



永森建設株式会社
所在地：福井市高柳3丁目3302番（本店）
電話番号：0776-52-0007
代表者：永森 芳信氏
資本金：4,000万円（グループ合計）
従業員数：76名（グループ合計）
事業内容：注文住宅の設計・施工等



顧客に対しての“オープン”

森林ツアーから宿泊体験まで
本物の良さを実感できる場を

永森建設株式会社

本物にこだわった住まいづくりを目指す、永森建設株式会社。素材力、技術力、提案力を追求し、お客さまにとって最高の住まいを実現しています。なかでも素材力では、産地から厳選した天然木が材木になるまでの工程を管理し、自社工場で天然乾燥させたものを適材適所に使用。通常は見えにくい他社との違いを、さまざまな見学会を通して顧客に対しオープンにしています。そのきっかけや理由を、代表取締役 永森芳信氏に伺いました。

体すると、山で木が生えていた場所まで考えぬかれた適材適所の家づくりに感心します。良い材料を残すことは、先祖の技や思いを後世に伝えることなんです。」

本物の木の良さをいかに若い世代へ伝えていくか

全国から仕入れた銘木をはじめ、同社は県産材も多く使っています。そのことで高くなりながら費用を少しでも抑えるために、3年前から池田町の白栗木材生産組合と出荷協定を締結。組合や市場を通さず、県産材を直接購入しています。「年間です使う材木

『森林ツアー』を開催し
木の素晴らしさを伝える

会社を立ち上げる前、永森氏は大手住宅メーカーに勤務していました。しかし、利益優先の材料や技術力に疑問を感じ、22年前に同社を設立。「自分たちは誇れる仕事をして、お客さまには当社で建てたことに誇りを持っていただける住まい」を目指しています。

「住まいづくりで大事なものは、良質な木を使う素材力、熟練棟梁の匠の技による技術力、一級建築士などによる優れた提案力の3つです。なかでも、当社は木を重んじており、基本的に集成材は使いません」と、同社のこだわりを語る永森氏。その背景には、幼少時代の父親との記憶がありました。

「子どもの頃、父から山で木の素晴らしさを教わりました。例えば、木はいつ切ってもいいものではなく、生長がとまる秋に切らないといけないんですよ」と教えてくれた永森氏。他にも、光や風の当たり方、山主の管理状況など、良質な木が育つには厳しい条件があると言います。

しかし、そうした木の話を、住まいづくりでお客さまが知る機会はありません。そこで、同社は山主の協力を得て『森林ツアー』を開催。「取引先が管理している山を訪ね、山主さんに木の育て方や切る時期の大切さ、先祖代々の資源を受け継ぐ思いなどを話してもらっています」

さまざまな体験を通して
永森の家の魅力を実感

同社は『森林ツアー』以外にも、通常の住宅会社の内覧会にあたる『住まいの見聞会』、基礎や建て前、外壁など住まいの構造を見学できる『建築現場の見学』、天然乾燥や加工の技が見られる『工場見学』などを随時開催しています。さらに、住宅展示場では、木の良さを五感で体感できる『宿泊体験』も行っています。

「ちゃんと流れがあつて、お客さまは始めに『見聞会』や『建築現場の見学』で、営業や現場監督から説明を受けます。希望があれば、展示場で『宿

の1割を県産材にしたいと思っています。モノを良くして値段を下げるには、流通革命しかない」と語る永森氏。今後、その取り組みを勝山市・大野市でも展開していく予定です。

良質な材木にこだわるため、「高額な家だと思われがち」だという同社。さまざまな見学会で価格の正当性を訴えるとともに、最近では、若い人が気軽に展示場に来られるよう、新しい「オープン化」の試みも始めています。

「今年の春から、永森の杜展示場で『杜の手しごと市』を毎月開催しています。手づくり作家の作品展示やワークショップをすることで、若い人に気軽に展示場にきてもらいたい。いかに敷居を低くするかという取り組みで、これをきっかけに本物の木を使った住まいの心地よさを体感いただけたらと思っています」

多角的な取り組みで、本物の木を使った日本の住まいづくりを次の世代に継承していきます。



福井市高柳のモデルハウス。宿泊体験ができるよう設備も整っています。（中央上の写真は同建物の内装）



取材当日は地元学生への工場見学が行われていました。

泊体験」をしていただき、住み心地を体感していただきます。次に、『工場見学』で材料を見ていただきます。そうすることで、あそこの家で使っている木は、こうやって加工しているんだ」と実感できるでしょう。さらに、その木はどこで誰が育てたのか、『森林ツアー』で木の素性を知っていただくようにしていきます」

永森氏が木という素材にこだわるのは、もうひとつ理由があります。「当社は、古民家再生も手がけています。江戸時代に建てられた民家を解



福井のIT業界はこんなにオープン！ マジメに楽しく ビジネスにつなげています

株式会社jig.jp

“オープンデータ”を活かす

オープンデータを市民目線のアプリに 広がりを見せるデータ公開の流れ



福野 泰介氏

政府や自治体の持つあらゆる情報をデータ化し、誰もが自由に使えるよう公開するオープンデータ。“データシティ鯖江”を掲げ、自らがモデルとなり世界中に発信していこうと精力的な鯖江市を中心とし、現在本県は日本一のオープンデータ先進県となっています。その立役者が、今回お話を伺ったjig.jp代表取締役の福野泰介氏。オープンデータへの期待や今後の展開などお聞きしました。

データ整備の重要性 市民目線の活用を

鯖江市内のトイレ情報の検索、市内のコミュニティパスの運行状況、避難所情報など、生活に根ざしたアプリケーションが、市の公開するオープンデータを元に次々と生まれています。「利用者に時間を提供するツールを」。同社の創り出すソフトウェアのコンセプトはここにあると福野氏は言います。より便利なツールを作るためには、多くのデータにアクセスできることが必要と考え、鯖江市に対しオープンデータを提案したことが、市が事業に乗り出す発端となりました。

行政所有のデータの整備を、実社会の道路整備に例えて福野氏はこう話します。「きれいに整備されたデータがインフラとしてあるからこそ、新しいアプリが素早く、かつ低価格で立ちあがります。舗装もされていない道路に店を出しても、人が来ないのと同じ。まずデータ形式の統一化が重要です」。

米・英より先にそのインフラの整備をすることが、

データシティを打ち出す鯖江市にとってもメリットになると、素早く反応してくれた市の理解。そして、政府レベルで進める諸外国と違い、生活に密着した地方自治体のデータを活かしていることが、1歩リードできている現状の勝因と同氏は考えています。

企業も関心。データ公開の 広まりと理解に期待

オープンデータの広まりに伴い、関心を持つ一般企業も増えてきた。とある建設会社からは、現在企業内だけで使われている、所有する重機のデータを公開して活かさないかと提案があったといいます。「常時ではないにしても、災害時などいざというタイミングで出動要請に応えられるようにしたい」というもの。体制を整えておくだけでも社会的意味が大いにあると福野氏も考えています。

「企業の情報発信にもオープンデータは有効です。例えばチェーン店の情報がオープンデータとして公開されていれば、アプリ開発者はいろいろな地図アプリケーション

どに自由に載せることができます。企業側にとっては、これまで広告費を払っていたところをタダで宣伝できるわけです」。開発側としても利便性の高いアプリを作れ、メリットがあると話します。

オープンデータをさらに増やすためには、様々な立場の人がいろんな視点でアプリ開発をすることが重要と考える福野氏。一例として、数年前から小学生に対してのプログラミング体験イベントを行っています。「こどもパソコン IchigoJamを使って、初歩的なプログラミングを体験してもらっています。身近なオープンデータは彼らにとって最高の遊び道具。アプリ開発の楽しさに目覚めてくれる子どもを探しています」。

オープンデータはまだまだこれから、と福野氏。今あるデータをいかに使うか。民間企業にとっても所有するデータを公開することで、新たなビジネスチャンスに繋がる可能性もあると言えそうです。



こどもパソコン IchigoJam。

株式会社jig.jp

所在地：鯖江市新横江2丁目3-4（本店・開発センター）
東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目23-5（本社）

電話番号：03-5367-3891（代表）

代表者：福野 泰介氏

資本金：7,725万円

日本最大規模の開発コンテスト “Mashup Awards”

Mashup AwardsはWeb開発者が自ら開発したWebサイトやスマートフォンアプリ等を通して技術、デザイン、アイデアを競い合うコンテスト。協賛企業がオープンにしているAPI（あるサービスの一部の機能だけを外部に公開して、それを外部のプログラムで利用できるようにするインターフェイス）を活かした作品が、毎回全国から約500点集まります。



福井は過去10回の大会中3回も最優秀賞作品（賞金200万円！）を輩出している、言わば「MA王国」。福井

地区予選ではソフトウェアエンジニアの他に、デザイナーやプランナーが集まり、チームを組んで作品製作をすることで、アプリ開発の楽しさが広がっています。

今年もMashup Awards アプリ開発イベントが開催されます！当支援センターと、Mashup Awards運営事務局がタッグを組み、Mashup Awards11への参加に向けたアプリ開発イベントが行われます。今年は福井工業大学で開催。社会人IT技術者はもちろん、学生やOB・OGの参加もお待ちしております。

- 日 時／平成27年9月22日(火・祝)～23日(水・祝)
両日10:00～20:00
- 会 場／福井工業大学 経営情報学科 講義室
- 参加料／無料 ●定 員／40名

福井インターネット通販研究会 “どっと混む福井”

敢えて福井にこだわり、福井から情報発信する地元企業の経営者・Webマスターが集結する自主活動組織。競争が激化するeビジネス市場の中で、会員企業の売上げ拡大とブランドの確立を目的に、月に一度の例会を中心とし、意見交換、ノウハウの共有、勉強会等を自主的に行っています。



【例えばこんな活動をしています】 3C勉強会

「Customer、お客様は誰か?」、「Company、自社の強みは?」、「Competitor、競合はどこか?」という“3つのC”の観点から、回ごとに参加事業者のサイトをモニターして意見交換を行っています。自社のHPがどのように見られ、どう伝わっているのかを客観的に見つめ直せると、会員からも好評です。

《お問い合わせ》
どっと混む福井2015事務局
福井市桃園2丁目1-40 榊山工芸 内 / TEL: 0776-36-6720

福井県オープンデータコンテスト

県が提供する108のオープンデータを活用して作られたアプリを募集し、新ビジネス・新サービスの創出と、県民の利便性向上を目指すコンテスト。今年度が2回目の開催となり、盛り上がりを見せています。アプリ開発部門のほかアイデア部門もあり、本県のオープンデータを参考に、このようなデータを使って（または、このよ

うなデータが公開されれば）、このような活用ができるという企画案を募集しています。

■ 応募受付は…平成27年9月7日まで

《お問い合わせ》
福井県 総合政策部 政策統計・情報課
TEL: 0776-20-0270



都会の若者への“オープン” 山嘉商店株式会社

学生を受け入れ伝統技術を伝える 都会と地方をつなぐ懸け橋に

越前漆器、越前打刃物、越前和紙、越前焼…、伝統産業がいくつも集積するエリアの中にあり、樹脂成型を専門に事業を進める山嘉商店株式会社。一昨年の夏、東京にある日本工学院専門学校で学生を受け入れ、各伝統工芸の技術を体験してもらいました。地域全体の協力を取りつけ、2週間の滞在中みっちり伝統技術をつつみ隠さず教える意図と、その後生まれたものは何か。二人を受け入れ指導した、専務取締役の山田博之氏にお話を伺いました。

「本人たちと話をする、コンセプトも漠然としていたし、ユニットとして向かう方向性も定まっていなかった。五里霧中の状態でしたが、本人のやる気を感じましたし、何より若い人の可能性をつぶしてはいけないという思いでした」と山田氏。 当人たちの希望もあり、数日間それぞれが越前漆器と越前焼に分かれ、現場での研修を重ねた2名。漆器では塗り、蒔絵、沈金などの技法を。越前焼では実際の作陶の他、お茶や生け花など作法を学ぶカリキュラムまであったとい

伝統工芸を通してモノづくりへの自覚を

山嘉商店と学生との出会いは、樹脂を使った商品開発をお題とした同校デザイン科の授業の一環でした。その学生の中に「伝統的な何かと、現代的な要素を組み合わせてプロダクトにしたい」、「デザインユニットを組んで活動していきたい」と希望する女子学生2名がおり、学校側から山田氏に受け入れの依頼があったとい



伝統柄とポップな色彩の組み合わせによるアクセサリー。

若い感性と伝統工芸 都会と地方のつながり

当面の目標は文化祭の模擬店で自分たちのプロダクトを販売すること。協力者として

「伝統技術を数日で習得するのはとても無理です。しかし実際に手法を五感で体験できたことや、完成品に触れて使った際の立場でのモノづくりを意識できるようになったことは、彼女たちの財産になったと思います」。 伝統工芸の体験を通し、将来モノづくりに携わる人として、その自覚を持つことの重要性も伝えられたと語ります。

山嘉商店株式会社 所在地：越前市野岡町6-4 電話番号：0778-42-2301 代表者：山田 喜六氏 資本金：1,000万円 従業員数：8名



職人の技に見入る二人の様子。

デザイナーへの“オープン” アートパックス株式会社

企業のバックヤードをオープンに デザイナーへの工場見学・勉強会



食品包装フィルム・紙パッケージの企画・デザインから印刷・製造まで、トータルに行うアートパックス(株)。県内外の食品メーカーからの様々な要望に応え、業績を伸ばしています。このほど同社が県内のデザイナーを対象に始めた取り組みが、工場見学を通じた食品パッケージデザインの勉強会です。企業の裏側をあえて見せる、その意図はどこにあるのか。勉強会を企画運営する、営業部の堂林通範氏にお話を伺いました。

素材や印刷など 技術的な面での共通理解

「現場に入らなければわからないなかつた体験ができた」大変勉強になった。6月に開催した第一回の工場見学・勉強会に参加した7人のデザイナーは、そろってそんな感想を口にされましたと堂林氏。フィルムは、その素材や熱による収縮、色ののり方など技術的な内容だけでも伝えるべき多くのノウハウがあるとい

パッケージの表示など 業界独自の法的な勉強も

勉強会を企画したもう一つの理由として、食品パッケージという商品自体の特異性がありました。栄養成分表示、原材料表示、アレルギー表示等に関する記載、誇大表現など業界ならではの細かなルールです。同社は、製品の申請先である保健所との長年のやりとりによって、法的な部分の知識や経験を蓄積しています。これまでも、それらのノウハウや難解な法的事項を個々の顧客に対し、分かりやすい言葉に噛み砕いて伝えることで、信頼を深めパイプを太くしてきました。



アートパックス株式会社 所在地：福井市三尾野町29-2-22 電話番号：0776-33-2300 代表者：織田 憲三氏 資本金：1,000万円 従業員数：70名



の確認のため保健所へ何度も足を運ぶのは大変で、小さな点を聞くのも気が引けるとの声がありました。そんな際に、こちらが過去の経験を元にその程度のお手伝いをしてきたという経緯があります」。 堂林氏は同様の取組みを、食品メーカーと(株)アートパックスとの間に入る立場のデザイナーに対しても行い、ノウハウを共有し、ネットワークを築いていきたいと考えています。結果的に業務の効率化につながり、顧客・デザイナー・自社の3方良しが期待されます。 法改正なども多く、知識のアップデートが必須の食品パッケージ業界。同社が各種団体主催のセミナー等で得た新鮮な情報を、勉強会に参加したデザイナーへメールで配信するなど、アフターフォローにも余念がありません。

街中のビルが「リノベーション」で交流スペースに



**【空き店舗を改装 街に魅力を】
これからビル コワーキングスペース**

福井市ガレリア元町商店街の空きビルを改装して7月にオープンした「これからビル」。この3階にコワーキングスペース「サンカク」が設置される予定だ。1階のカフェも人気となっており、業種を超えた交流など、中心市街地活性の一躍を担う空間として期待されている。

■所在地：福井市中央1丁目10-22/電話番号：090-1312-2911 (福井木守り舎)



**【リノベーションを学びの場に】
フラットキッチン**

福井市順化2丁目の古いビルをリノベーションして、交流や学びの場とした「フラットプロジェクト」。内装を壊し再生するその一連を、ワークショップ形式を取り入れて開店した。「デザイン」と「ものづくり」を核に、自由に参加し、学び、交流するスペースとして注目されている。

■所在地：福井市順化2丁目16-14/電話番号：0776-97-5004

「古民家」「中古住宅」が注目されています



**【古民家の良さを伝えたい】
朱種 shu-shu**

敦賀市北部・横浜地区の古民家を一棟丸々リノベーションしたのは、建築関係者やデザイナーらが立ち上げた団体「R空間工作室」。同団体は古民家市場を活性化させる目的と同時に、コミュニティを生む場としても捉えている。これまでもさまざまな勉強会やイベントが行われている。

■所在地：敦賀市横浜12-26/電話番号：0770-32-0529



**【“コト”が交じり合う空間に】
ひとつ屋根のシェア「かわら家」**

福井駅から徒歩5分の一軒家。シェアハウスをしながら1階をオープンスペースとして開放している。Uターンで福井に帰り、“住み開き”と称しこの物件を借り始めた前田浩貴氏。「駅前ワークショップをやりたい」など、生まれたコミュニティでアイデアを形にしたい人などにオススメ。

■所在地：福井市日之出2丁目12-18/ mail : kawaraya.fukui(at)gmail.com

「朝活」をビジネス、学びに



**【異業種交流会で営業力強化】
BNI 福井チャプター**

毎週早朝6時半より県内の経営者等が集まり、各企業がその専門性を活かしビジネスチャンスにつながる異業種交流組織。会員間の仕事の紹介により、お互いのビジネスを伸ばしていく。活動の中で会員間のビジネスのコラボレーションも多数生まれるなど、実益につながっている。



**【朝の時間を有意義に共有】
朝活ネットワーク福井**

月に2回のペースで活動し、朝のひとときをさまざまな人と共通するコミュニティ。2014年2月に設立し、セミナー、勉強会、ワークショップ、講演会、読書会など多岐にわたる朝活を続けている。参加のルールなど同ネットワークの情報はFacebookページで情報発信されている。



ビジネスにつながる！ コミュニティの生まれる場所

さまざまな業種のさまざまなノウハウをもつ人が集まり、オープンな交流ができたとき、何か新しいものが生まれる…そんな予感がしませんか？ここではそんなコミュニティが生まれそうな県内の身近な場所をご紹介します。

福井県産業情報センター コワーキングスペース

IT分野の創業者の発掘、育成。また、異業種・異分野交流を促進することで、県内に新しいビジネスを創出することを目的に生まれたオープンスペース。どなたでも自由にご利用できます。

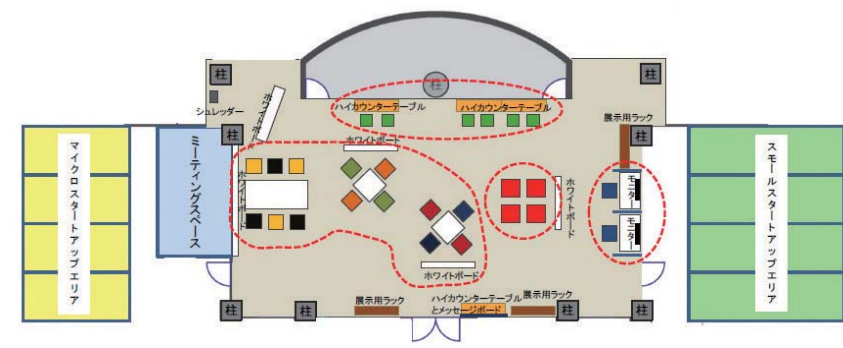
①創業マネージャーが相談対応してくれます

創業を考える人に向け、創業に関する幅広い専門知識を持つ2名の専門家(創業マネージャー)が相談・指導にあたってくれます。さまざまな角度から創業をバックアップ。仕事帰りにも利用しやすいよう、夜9時まで対応しています。創業マネージャーのスケジュールはHPでご確認ください。



②スタートアップオフィス 月11,439円から

これからIT分野で創業をお考えの方、ITを活用して新しい事業を立ち上げたい方に向けたスペースです。コワーキングスペース直結の環境を活かし、貴方の想いを形にしませんか？



③ビジネスに役立つセミナーを開催しています

<9月以降 注目のセミナー>
「白熱！ Kumando創業教室」
創業に興味のある・創業を考えている若者を対象に、福井県ゆかりの起業家・実務家を講師に招き、全6回シリーズで開催します。参加無料。



④グループ利用も受け付けています

グループでのミニ勉強会、交流会を行う場合、コラボレーションエリアを中心に座席を予約することもできます。自由な集まりにご利用ください。(※グループでのご利用には申請が必要です。)



《こんなグループにご利用いただいています》
「もくもく会」様
もくもく会は、それぞれ各自もくもくと勉強したり作業したり本を読んだりする会。何かに集中する時間を作りたいけど、ひとりだと怠けてしまったり、他の事をしてしまったりする方に。

■所在地：坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16/電話番号：0776-67-7416

完成への道

商品はどのようなプロセスで完成されていくのか。企業によるアイデアの創出から新商品誕生までの開発ストーリーを紹介します。

「見える化」で進む、 賑わいの拠点づくり

うるしの里かわだまちづくり協議会

工房をはじめカフェや ショップも幅広く支援

1500年の長い歴史をもつ越前漆器を手がける、ものづくりのまち河和田地区。近年は、少子化による人口減少や不況に伴う地場産業の減退が深刻になっていきます。そこで鯖江市は同地区の交流人口の増加や移住・定住促進を目指し、「うるしの里かわだ元気再生プロジェクト」をスタート。住民団体の代表者や若者を中心に「うるしの里かわだまちづくり協議会」を立ち上げ、市と共に「モノ・マチ・コト・ヒト」を軸とした部会を設け、さまざまな事業を展開しています。

「モノ・部会では、主にものづくりの見える化」と、新かわだビジネスの推進に取り組んでい

鯖江市河和田地区では、平成25年から『うるしの里かわだ元気再生プロジェクト』の一環として『地域の賑わい交流施設整備支援事業』を推進。漆器工房の“見える化”やモデルショップ、古民家・空き家の改修といった賑わいの拠点づくりがあります。同事業を活用した『久太郎』店長の曾明富代氏、河和田地区区長会長で、うるしの里かわだまちづくり協議会長の谷口康彦氏、事務局である鯖江市地方創生戦略室 室長補佐の齋藤修一氏に、これまでの取り組みを伺いました。

お客さまの声が聞ける 次のものづくりに活かす場

同支援事業を利用して、曾明氏は、漆器の展示販売とものづくり体験を行うモデルショップ『久太郎』を今年9月にオープンします。

「当社は、もともと大正8年創業の曾明漆器店という漆器の卸売業者です。平成15年からネットショップを開業したんですが、最近になってサイトをご利用いただいている県外のお客さまから、現物を見たい、オリジナルでつくってほしい」といった声があるようになってきました」そう実店舗づくりのきっかけを語る曾明氏。

約8坪の店内には、サイトの商品展示や地元作家の作品が展示紹介されます。また職

「多くの方に越前塗りの技や美しさを直接見ていただき、お客さまの声を聞き次のものづくりに活かしていければ」と、曾明氏は展望を語ります。

まちの魅力を体験できる 見える化 エリア

地区の代表としてプロジェクトを見守る谷口氏は「丁寧

なものづくりと、里山で暮らす人の豊かさ。その両輪が、このまちの強みです」と語ります。9月には、そんな今の河和田を体験できる『河和田くらしの祭典』が開かれます。

道アート2015、歩楽里かたやまに加え、工房見える化・ショップエリアも拡大され、曾明氏の店もルートに組み込まれる予定です。「サイトでは満足しないお客様や、ふらっと立ち寄っていただいたお客様がものど対面し触れることができ、新たな感動を感じていただければ、そんな場所になれば」と語る曾明氏。

事業計画で、今年が総仕上げの年になります。これからの課題も見つかり、今後この賑わいをどう継続・発展させていくかが重要だ」と表情を引き締める齋藤氏。

プロジェクトは終了しても、賑わいを目指した取り組みは続いていく。同事業で見える化を実現した多種多様なショップが、これからのまちづくりを牽引していくでしょう。



今年9月にオープンする「久太郎」モデルショップの一角。漆器産業で使われてきた古道具を活かしたディスプレイです。



漆塗りの技術でこれまでにないデザイン、色あいの商品開発を。30代女性を中心にネットショップで好評です。



谷口康彦氏



曾明富代氏



齋藤修一氏

第9回 若手のチカラ。

このコーナーでは、若手のパワーでチャレンジを続ける会社を紹介。若い力から成長企業の元気の源を探ります。

スタイル・オブ・ジャパン株式会社

「縁」キーワードに

若狭塗箸の可能性ひらく

留学先のNYで創業
京都の職人の下で修業も

家業はもともと若狭塗箸の産地問屋で大森氏は4代目にあたります。大学で歴史学を専攻し地域資源の重要性に目覚めたのをきっかけに、2002年にMBA取得を目指してニューヨークへ。現地では日本食ブームを目の当たりにし、「日本の良い物」を広げようと2003年、23歳で創業しました。箸や食器、アンティークを扱う店や飲食店にアプローチしながら、テストマーケティングを繰り返したとい

います。高校時代からアメリカ行きを意識し「自分で何か事業を起こしたいと考えていた」との夢は実現できたものの、「どこで何がどう作られているか

自身をダイレクトに共有するにはウェブが最適と、2007年ごろからウェブでの直販にも力を入れ始めました。同社が運営するネットショップ「茶屋長三郎彌助」では、塗箸以外のキッチンウェアや、若狭すっぽんなどの食品も扱っています。

「何屋さんなの？」と言われることもありすが、そもそも箸だけで食卓は成立しませんよね。箸から食器、ランチョンマット……と連想を広げていった結果、今のようないんナップになりました。『お箸のコンシェルジュ』と名乗っているのもそうした背景があるからなんです」

「思いの共有」目指し
ウェブ直販にも注力

最初には手掛けた自社開発商品は柄のない無地の塗箸。業界では後発組の商品開発だったことから、既存の販売ルートにとらわれず雑貨店やセ

レブの座標軸を再確認しようとする逸品創造ファンド助成金へ承認申請しました」と明かします。ファンド承認後の今年2月に開かれた「東京ギフトショー」では、中国や台湾など海外バイヤーからも好評を得て、販路拡大につながる手応えを感じたといいます。

取材を通じて「ものづくりはファンづくり」を繰り返した大森氏。ニューヨーク時代を振り返り、製造や販売など道具づくりに関わる者は、道具の魅力をファンに伝えファンの輪が広がるよう知識を磨く必要があるのでは、と訴えます。

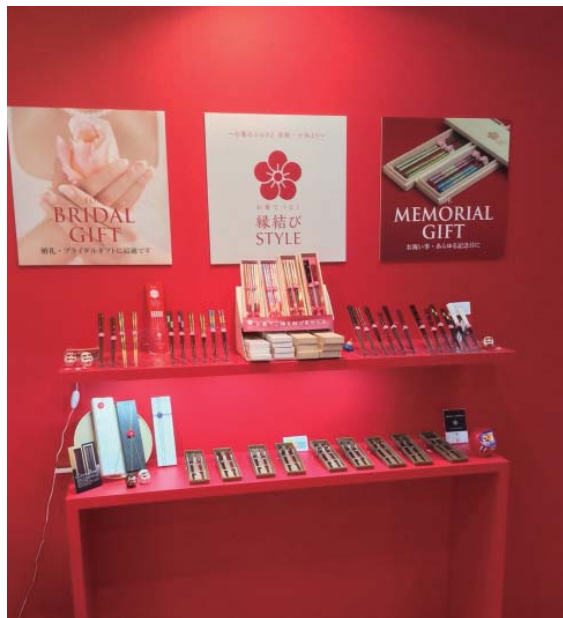
逸品ファンド申請で
自社の立ち位置再確認

ネットショップの運営を通じて、ギフト商材市場では「縁起のいい物」の価格は下落していないことが分かったと大森氏。「神話に基づいた『縁結び』が不変であることや、それにちなんだ『夫婦箸』の需要があることも分かりました」と話し、「現代社会で受け入れられる箸とは何

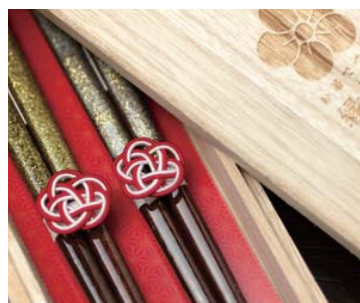
「伝統産業は基本的に分業制で、だれか1人が仕事をやめると分業のリンクが切れてしまいます。しかも日本のものづくりは、為替や株値など経済状況に左右され外需主導と内需主導との間で翻弄されているのが現状です。塗箸をめぐる環境はたしかに厳しいですが、時代に左右されずに『日本の良い物』を世界に訴える方法はあるはずと、一筋の光を信じて進んでいきます」と締めくくりました。



事務所の一角を利用し、展示会でのディスプレイイメージを検討しています。



東京ギフトショー出展時の様子。



大森 一生 氏



2014年度グッドデザイン賞受賞

ステーキナイフカラーズ SK03

有限会社 龍泉刃物



刃にみられるダマスカス模様は単なる装飾ではなく機能を追求した証である。この肉の組織より小さい 200μの凹凸により従来のステーキナイフと比べて抜群の切れ味を有する。柄の部分は、新たに開発した組み付け易く外れにくい特殊ネジで固定することにより、アルミや木など多種の素材によるバリエーション展開を可能とした。

あくまでテーブルの主役は料理。主張せず、肉をストレス無く切れるテーブルウェアに徹したデザイン。また、ハンドルの下面をフラットにし立てて置くことで、指先で柄の部分を起こして持つなどの動作を無くし、刃先がテーブル面に接触することなく清潔に使えるよう配慮されている。特殊な刃付け方法により食器を傷つけることもない。品質はもとより高級感、耐久性を兼ね備えたステーキナイフとなった。

DATA

- 受賞対象名
ステーキナイフ [ステーキナイフ カラーズ SK03]
- 受賞企業
(有)龍泉刃物 (福井県)
- 受賞番号
14G030150
- プロデューサー
増谷浩司
- ディレクター
増谷泰治
- デザイナー
(株) プレーン 代表取締役 渡辺弘明

審査委員の評価

担当審査委員 | 山本秀夫 池田美奈子 佐藤弘喜 須藤玲子

機能を突き詰めることで生まれる美が感じられる。料理を引き立てるテーブルウェアを意識したナイフは、要素を抑えるミニマリズムに徹し、物質的な存在感を消そうとしているように見えて、それとは裏腹に強いインパクトがある。見るからに切れそうな刃の表面に現れる印象的な模様は装飾ではなく、表面にミクロン単位の凹凸をつけることで切れ味を高める機能から生じた必然的な模様である。究極の機能性が生み出す華やかで気品のある日本刀を思わせるデザインだ。

第3回

福井県のグッドデザインを紹介

グッドデザインシンキング

飛躍する経営者たち

福井県ゆかりのアグレッシブな経営者取材。企業を成長へと導く秘訣に迫ります。

第14回

中尾 豊氏

株式会社PROPO 代表取締役

ウェブサイト集客力アップの請負人「売る力」をコンサルティング

2年前から入居している福井県産業情報センターを拠点に、ウェブサイトの売上げや問い合わせを増やすコンサルティング事業を中心に行う株式会社PROPO代表取締役の中尾豊氏。ウェブ関連のセミナー講師として全国を飛び回り、執筆した本はAmazonのコンピュータ・IT部門のランキングで1位となるなど、活躍中の同氏にお話を伺いました。

株式会社PROPO

HP: <http://www.keyword-hunter.com/>

所在地: 坂井市丸岡町熊堂3-7-1-16 8F 従業員数: 1名

資本金: 30万円

事業内容: ウェブコンサルティング業等



「売れる」考え方を伝える

検索キーワードに注目
リステイング広告(※1)、LPO(※2)の専門家として、コンサルティング事業、セミナーでの登壇、書籍の執筆、自身のブログを通し、知識やノウハウなどを提供している中尾氏。ネット上でビジネスを成功させる一つのポイントをこう語ります。

「基本的に、検索キーワード」ドに全てがあると思っ
ています。検索キーワードに隠
れている、ターゲットのニ
ズを紐解くことが第一歩で
す。それに、売りたいものを
売ろうとする人が多いので
すが、誰かが欲しがっている
ものを売る」と、考えを変え
てほしいですね。

少ない投資でより早く、よ
り多くのリターンを求めるク
ライアントに対し中尾氏は、
ページの改善に取りかかる前
に、根本的なマーケット感覚
を持たせることを重要視して
います。その理解の上で、ペ
ージのアクセス状況を解析・
分析しながらクライアントと
共に丁寧に課題を解決してい
くといえます。

頭に入りやすく、やったら
イケるんじゃないか！と期待
を持ってもらえることがまず
は大切と中尾氏。「コンサル
ティングを受けていただき、
何かしらの効果が出れば継続
していただけます。売上げが
伸びた、問い合わせが増えた、
そんな声をもらえたときに嬉
しいです」

本を通しての発信 福井にマーケティングを

中尾氏は2014年、20
15年と続けて、ページの集
客・売上をアップさせるため
のハウツー本を出版し、いず
れもAmazonランキング
上位を賑わせる盛況ぶりだ
す。書き始めたのは「自分の
ノウハウを多くの人へ伝えた
い。カタチにしたい」という
思いからでした。およそ半年
をかけての執筆期間は、コン
サルティング業のかたわら、
寝る間を惜しんで打ちこんだ
と話します。

「今では笑い話ですが、真
夜中の3時に編集者と電話で
ケンカしたこともありまし
たよ。ようやく完成し、本が売
れたことも嬉しいことです

が、同時に専門家として認め
られたことを実感していま
す」と中尾氏。とある女性経
営者から、「この本の通りに
やったら売上げが倍になりま
した！」と赤線や付箋でいっ
ぱいになった本を見せられた
ときは、さながら我が子が褒
められているような嬉しさが
あったと言います。

福井にはウェブに関わる、
プログラマーやデザイナーと
いった製作者が多くいます。
そんな中から「一人でもマ
ーケッターを育てたい」と、
今後の展開を話す中尾氏。県
内のネットショップ経営者に
「福井には良い商品がたくさん
あります。ただそれを「売
る力」が足りていません。そ
こで必要になるのがマーケ
ティング感覚です。それを身
につけた人が社内一人でもい
ると、経営も違ってきますよ」と
とエールを送ります。

(※1) 検索エンジンでユーザーがあ
るキーワードで検索した時に、その
検索結果に連動して表示される広告
(※2) Landing Page Optimization =
ランディングページ最適化

「ふくいオープンイノベーション推進機構」への参加募集

本誌の冒頭でご紹介しました当機構に参加する企業・研究者を募集しています。自社技術だけでは事業化するのが難しいとお困りの方、研究成果を製品化に結び付けたいとお考えの方、ぜひこの機会にご登録ください。

1 機構会員の特典

- 企業の事業化に向けた県内外支援機関との最適なマッチングを図ります
- 人材データベース（機構内機関等）へのアクセスによりパートナーを探求できます
- セミナー・イベントの案内や共同研究等に関する各種情報等が入手できます
- 各大学、研究機関が所有する研究設備を利活用できます

2 対象(分類)

- 会員（機構の設立趣旨に賛同する企業または個人）
- 構成機関（県内外の大学、高専、研究機関、金融機関）

3 会費

無料（但し、各事業実施にともなう経費は負担いただく場合があります）

4 問い合わせ・申し込み先

福井県工業技術センター 企画支援室

〒910-0102 福井市川合鷺塚町61字北稲田10

TEL : 0776-55-0664 / FAX : 0776-55-3430

Mail : foip@fklab.fukui.fukui.jp

HP : <http://www.fklab.fukui.fukui.jp/kougi/foip/>

企業や各種団体の会議・研修等に便利！

「福井市街地より近い、最大200名収容、駐車場135台確保」

福井県青少年センター施設利用の御案内

1. 各種研修室

	大研修室	第1研修室	第2研修室	第3研修室	第4研修室	講堂
定員	126名	45名	30名	30名	54名	200名

2. 使用料

	5時間未満	5～10時間未満	10～15時間未満
大研修室・講堂	700円	1,540円	1,850円
第1～4研修室	490円	930円	1,540円

3. 宿泊料

小・中学生	280円
高校生	400円
26歳未満	550円
26歳以上	910円

《詳しくは下記までお問い合わせください》

福井県立青少年センター

福井市福新町2505 TEL : 0776-36-4853

Mail : eisyo-c@pref.fukui.lg.jp

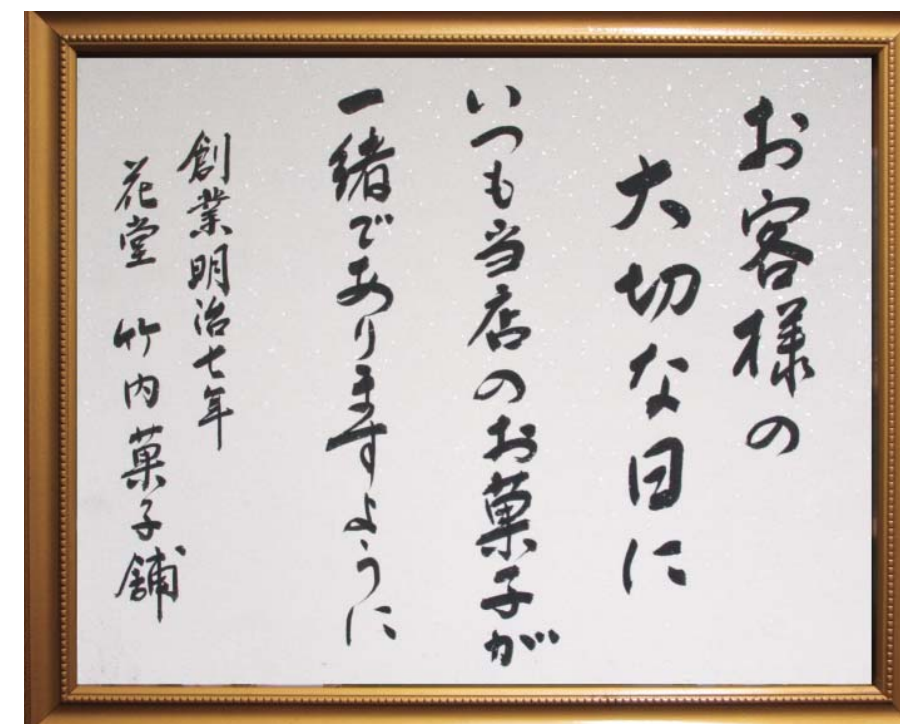
HP : <http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/seisyounen/>

No.03

今月の社是

「お客様の大切な日に」

取材先で編集者の目に留まった「社是」「社訓」「経営理念」をご紹介しますコーナー。そこからは企業の考えはもちろん、その会社の「色」や「空気感」まで伝わってくる場合があります。



1874年の創業から、地域の人々に長く愛される福井市花堂の竹内菓子舗。店の片隅にはこの書が掲げられています。東京で大学を卒業したのち、菓子作りの世界に飛び込んだ5代目店主の竹内信仁氏。後を継ぐため帰郷した際、お店の歴史を紐解きたいと、4代目(父)3代目(祖父)と話し合ったのが、書にしたためるきっかけだったと言います。

お客様に寄り添い、お客様の立場になってこの地で商売を続けてきた先代の思いや苦労を知った信仁氏。冠婚葬祭をはじめ、地域の方々の人生の節目にはいつも同店のお菓子がありました。これからもお客様の暮らしに密接に関わっていられる存在でありたいと話します。新店舗のオープンも近い同店。店の全員が同じ方向を目指すコンパスになれば…と、書を見つめる信仁氏です。

本誌「F-ACT(ファクト)」を活用して会社をPRしよう!

企業情報メール便

販路開拓のチャンス!
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便(チラシ同封サービス)を毎月実施いたします。配送先は、県内事業所約2,200社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか?



●料金

同封するチラシ・パンフレットのサイズ	料金(税込)
A4判以下のチラシ	8,400円
A4判超～A3判以下のチラシ (二つ折にしてA4判以下のサイズにすること)	12,600円
A4判以下のパンフレット(10ページ程度まで) ※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。	16,800円

ご利用を検討の方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。
1号につき約10社まで受け付けます。
なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター 総務部 F-ACT編集室
TEL: 0776-67-7414 e-mail: kouhou-g@fisc.jp

皆様の声をお聞かせ下さい!

「〇〇が面白かった、ためになった」、「△△をもう少し□□にしたらどうか」、「●●のテーマについて紹介して欲しい」、「▲▲会社がやっている■■■について取り上げて欲しい」など、本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

個人事業税(第1期分)の納期限は8月31日(月)です。

事業主の方は忘れずに納付しましょう!!

口座振替をご活用ください!

個人事業税の納付には、便利で確実な『口座振替』も利用できます。詳しくは、最寄りの金融機関や福井県税事務所(嶺南振興局税務部)へご相談ください。



コンビニ納税できます!

個人事業税を下記のコンビニエンスストアで納めることができます。これらのコンビニであれば、原則として24時間、**全国どこでも土曜・白曜・祝日でも納付が可能**です。



【利用できるコンビニ】

ローソン、ファミリーマート、サークルK、サンクス、ミニストップ、セブン-イレブン、コミュニティ・ストア、デイリーヤマザキ、ポプラ、ヤマザキデイリーストア、エブリワン、くらしハウス、ココストア、スリーエイト、スリーエフ、生活彩家、セーブオン、ニューヤマザキデイリーストア、ヤマザキスペシャルパートナーショップ (順不同)

【お問い合わせ先】

福井県税事務所 / TEL: 0776-21-8271
嶺南振興局税務部 / TEL: 0770-56-2223

本誌に関するお問い合わせは

fisc 公益財団法人 ふくい産業支援センター http://www.fisc.jp/
総務部 TEL:0776-67-7414/FAX:0776-67-7419/E-mail:kouhou-g@fisc.jp
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 (福井県産業情報センタービル内)

新聞記事から集めた 県内企業の 新商品・新規事業

■収集期間: 2015年6月1日~2015年7月31日

■収集対象: 福井新聞、日刊県民福井、日本経済新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

当支援センターが収集している新聞記事の中から、県内企業の新商品・新規事業に関する記事をピックアップしました。

【食料品・飲料】

伝統野菜「越前白茎ごぼう」の葉を混ぜ込んだ焼き菓子「しらクッキー」を販売。地元菓子メーカー西勘堂(坂井市)が開発・製造を担当、天日干した葉をさらに乾燥させて粉末にし、クッキーに練り込んだ商品。JA(はるえ(坂井市))

凍った状態で食べられる米粉カステラ「越のカステラ」を開発した。国のものづくり補助金を活用し、プロトン凍結機を導入。独自の高速冷凍技術で、凍らせることで風味が落ちてしまう弱点を克服し、1カ月は保存できるという。竹内菓子舗(福井市)

三輪そうめんの老舗メーカー、池利(奈良県)と組み、野菜のパウダーなどを練り込みカラフルにしたそうめん「okuru(おくる)」を開発。束を円形に仕上げ、ギフト用として発売を開始。トライアド(越前市)

【繊維/衣服】

福井大学の協力を得て、抗菌・脱臭効果がある銀の粒子を繊維に染め込む技術を活用した抗菌・消臭靴下「ネオ・ナノアグア」を開発。特殊加工で銀粒子を繊維に高密度で付着させ、何度洗濯しても機能が低下しない耐久性を実現した。ウエマツ(福井市)

県工業技術センターとSHINDO(あわら市)が開発したLEDリボンを活用し、遠くからでも文字を見やすくしたのぼり手旗を発売。LEDリボンが点滅することで布に書いた店舗名などの文字を目立たせることができる。カンボウプラス(大阪市・鯖江市)

細幅織物「越前織」の織テープの先端を丸めてキューブ状にした越前織のしおり「蕾」を開発。本に挟んで、しおりとして使うだけでなく、テープ部分に入った切れ目に蕾を通すと、リング状になるのが特徴。草履やボトルキーブの目印に使える。柳澤織ネーム(坂井市)

【金属/機械】

溶接体験などが楽しめるテーマパーク「アイアン・プラネット」をオープン。自社工場を「鉄の惑星」に見立て、溶接体験や金属と触れ合うワークショップなどを行うスペースで、工場の職人が直接器具の使い方を指導する。長田工業所(坂井市)

盆栽や寄せ植えに粉末状の乾燥コケを振り掛けて、手軽にコケを作ることができる「ふりこけサッサ」を開発、販売を開始。振って水をかけると、ふわっと花を開くようにコケが広がり、一面が濃い緑色に。双葉鉄工(敦賀市)

学校施設の長寿命化対策に対応する新商品「可動間仕切」を開発。柱や壁などの建築構造物と違って間仕切りは耐震性が低いとされるが「可動間仕切」は独自の技術を生かしたユニット枠構造によって強度を高めた。山金工業(福井市)

【眼鏡】

鼻パッドがないスポーツサングラス「AirFly(エアフライ)」を開発、販売を開始。スポーツ中に使用して汗をかくても鼻パッド部分でたまり、下に流れ落ちるため、レンズが曇りにくいのが特徴。ジゴスペック(鯖江市)

米ビュージックス・コーポレーションと共同で、眼鏡型端末向けのフレームを開発。独自の頑丈なフレーム構造で、前面にチタン、つる部分に樹脂を使い日本人の頭の形状に合わせた。三工光学(鯖江市)

【その他の製造業】

通常は使用後に捨てられてしまう祝儀袋を反物で作り、使用後は豪華な巾着袋として再利用できるようにした「結姫~musubime~」の販売を開始。アクティライフ(福井市)

サトウキビ由来のバイオエタノールを主原料に、分解剤を添加した素材「バイオポリエチレン」を特殊加工し、野生動物による食害から樹木を守る保護ネットを開発。太陽光によって7~10年かけて分解されるため、焼却処分の必要がないのが特徴。グリーンコップ(福井市)

福井工業大学デザイン学科とともに、段ボールの特性を生かし、軽量で保温性のある簡易更衣室「フィッティ」を開発。大人1人で3分もかからずに組み立てられ、収納・保管も簡単、使用後は資源ごみとしてリサイクルできる。ミヤゴシ(福井市)

災害で長時間にわたって主電源が復旧しない場合でも、安全迅速な避難誘導を図る高輝度蓄光標識を開発。蓄光材メーカーとの共同開発によって光の吸収率を高くすることに成功した。ライティングアース(福井市)

【商業/サービス/飲食】

第一興商(東京都)と業務提携し、7月より「とんとんびょうし越前本店」(越前市)を除く福井県4店舗、石川県3店舗の居酒屋内カラオケスペースの協力運営を開始。青山観光サービス(越前市)

ポイントカード会員向けの特典を一部変更し、スロット抽選で電子マネーや若狭牛が当たるサービスを開始。「はずれ」もある一方、スロットで図柄がそろえば20円~千円分の電子マネーが当たる仕組み。大津屋(福井市)

布団クリーニングの宅配サービスを開始。専用サイトから申し込みを受け、まず布団袋などの宅配キットを家庭に配達。指定された日時に宅配業者が引き取りに行き、仕上がった布団を約2週間後に届ける仕組み。黒川クリーニング社(坂井市)

県産食材を生かしたかき氷2種類を発売。茶葉かぐや(福井市)の高級抹茶や竹内菓子舗(福井市)のつぶあんを載せた「王様の白玉ミルク宇治金時」、伊藤農園(坂井市)の有機栽培イチゴを使った「王様のいちごみるく」。サザンパワー(福井市)

コープ武生(越前市)の3店舗を除く41店舗で、共同仕入れ機構のシジメジャパン(東京都)の電子マネード「ハニー CoGCa(コジカ)」を7月から一斉導入。北陸3県で、CGCの電子マネー導入は初めて。協同組合ハニー(福井市)

様々な機器をネット接続する「IoT」など最先端技術の基礎を習得するIT人材育成の塾を、プレディクト(横浜市)と共同で開講。専門知識がなくても実践を通じて学べるのが特徴。フィールドオフィス(福井市)

空き家の解体費用を融資する無担保ローンの取り扱いを開始。老朽・危険化する空き家の解体費用について補助金制度を設けている自治体と連携を図り、資金面でサポートしたい考え。福井信用金庫(福井市)

県内で初めて「LINE」アプリからタクシーを呼べる配車サービスを開始。LINEのアプリ上の地図から迎車位置を指定すると、最寄りのタクシーを呼び出せ、到着予定時刻なども表示される。決済サービス「LINE Pay」を利用でき、社内での現金精算は不要に。福井相互タクシー(福井市)、せいせんタクシー(福井市)、サンキュータクシー(敦賀市)、美浜自動車(美浜町)

設備貸与制度が リニューアルスタート!! ご利用をお待ちしています!

長年皆様にご利用頂いておりました設備貸与制度が
平成27年度、新しく生まれ変わりました

低利で有利な設備貸与制度が、
小規模企業の皆様の設備投資を
サポートします!

割賦損料率 1.6%~

平成27年度
申し込み
受付中

メリット

- ◆ 割賦損料率(金利相当分)が低利です。
- ◆ 契約期間中は割賦損料率、月額リース料率ともに変動いたしません。
- ◆ 信用保証協会の保証枠や金融機関の借入枠とは無関係ですから、運転資金に余裕ができます。



制度の詳細は支援センターのホームページをご覧ください。
http://www.fisc.jp/archives/cat5/post_40.html

ふくい 設備貸与

検索

設備貸与制度の流れ

